

□議員名：藤岡修美

1 中学校部活動の地域展開の現状について

論点	部活動の地域展開について、関係者にどのように周知し、理解を求めているのか。
回答	各中学校に出向き、部活動の顧問の先生方との意見交換を行い、令和8年度以降の学校部活動の方向性について、中学生向けの説明会を開催した。また、中学校区ごとでの保護者や地域の方に向けた説明会を行い、周知、理解を求めてきた。

論点	市広報紙では、令和8年度以降は、休日の部活動は行われず、平日の部活動は週2日程度となるとあったが、実際にそうなるのか。
回答	令和8年の3年生が引退した後、休日の学校部活動は行わないこととし、併せて部活動の地域展開の促進に向けて、平日の活動日を2日とすることを、学校及び児童生徒、保護者に示している。

論点	部活動の地域展開の受皿として、地域クラブ活動団体の募集を6月から実施しているが、設立要件はどうか。
回答	(1) 規則・会則を定めていること、(2) 週2日以上 of 休養日を受け、活動時間は原則、平日2時間、休日3時間程度とすること、(3) 費用負担、受益者負担を明確に示すこと、(4) 生徒、指導者が保険に加入すること、(5) 活動計画を作成すること、(6) 事故防止、健康管理、トラブル対応など管理責任を明確にすること、(7) 指導者の確保・適正な指導ができる体制を有すること、(8) 大会運営等の協力を行うこととしている。

論点	地域クラブ活動団体の応募状況、認定状況はどうか。
回答	7月末現在で、陸上、男子バレーボール、女子ソフトテニス、サッカー、剣道の5団体の応募があり、全ての団体を認定している。

論点	「地域クラブ推進室で地域クラブ活動団体の設立を支援する」としてあるが、どのような支援なのか。
----	--

回答	規約あるいは規則の作成の事前確認や参加費の取りまとめ、指導者謝金の支払い、保険加入等の事務手続に係る運営支援のほか、指導者のマッチングやあるいは指導者向けの講習会などを開催することにより、支援を行っている。
----	---

論点	現在、市内中学校で行われている全ての部活動を、地域クラブ活動団体で受け入れることができるのか。
回答	現行の全ての休日の学校部活動を、地域クラブ活動団体で受け入れることができるよう整備していきたいと考えており、そのためには、5つの地域クラブ団体では足りないので、約1年後の地域展開の本格導入時期までに、約40団体程度の登録を目指してまいりたい。

論点	複数の学校がまとまって一つの部活動を行う合同部活動の導入や、学校部活動として、運営・実施する地域連携を検討してはどうか。
回答	学校部活動としての地域連携は検討していないが、複数の学校にまたがって1つの部活動を行う合同部活動に類する地域クラブや、地域の人材を活用して現行の学校部活動に指導者を派遣する地域クラブなどの形態は様々あるということは承知している。

論点	中学や高校の部活動の停滞が市民の文化スポーツ活動の停滞につながっていくが、中学校の部活動の地域展開にどう取り組むのか。
回答	中学生が地域において多様な活動ができる機会の提供、それから学校部活動の意義や役割を継承し、発展させる活動の創出、学校と地域が連携し、中学生が参加しやすい環境の整備などをしっかりと進めていく。

## 2 本市におけるGX（グリーントランスフォーメーション）の推進について

論点	本市では、現在、GXの推進にどのように取り組んでいるのか。
回答	令和6年6月にGX推進指針を策定し、市が目指すべき脱炭素社会の姿を明らかにした。現在は、推進指針を具現化していくための山陽小野田市GX推進アクションプランの作成に取り組んでいる。

論点	G Xを推進していくに当たり、本市の特徴である産業面への影響をどのように捉えているのか。
回答	脱炭素化は市の経済や雇用、企業活動に少なからず影響を与えることが想定されるため、まずは目指すべき脱炭素社会の在り方を慎重に検討し、その実現に向けて、多様な関係者と力を合わせて、脱炭素化に取り組む企業をしっかりと後押ししていく。

論点	国や県の動向を踏まえ、今後どのように取り組んでいくのか。
回答	国のG X戦略地域について、県では当該地域への選定を目指しており、宇部・山陽小野田コンビナートを抱える本市としては、国や県の動向を踏まえ、県や近隣自治体等と連携して、G X型コンビナートへの構造転換に積極的に取り組んでいく。